

# 芥子坊主農村公園でヤマモミジ 50 本を植樹 森林 (もり) の里親促進事業



# 報 おなかだ



長野県が「信州山の日」と「信州山の月間」を制定した記念すべき平成 25 年に、岡田財産区は「森林 (もり) の里親契約」を松本信用金庫 (信金) と締結し、森林 (もり) づくりを開始しました。この事業は、地域との交流を通じて、森林づくりへの理解を深めることを目的にするもので、信金にとっては、4 年後の創立百周年記念行事へ向けての事業の一環です。

今年度は、梅雨入り直後の 6 月 9 日、約 70 名の里親 (信金) と里子 (岡田財産区) の関係者総勢 100 余名が、芥子坊主農村公園で「ヤマモミジ」の苗木 50 本を植樹しました。朝 9 時から作業を開始し、昼には信金が用意した弁当と岡田財産区が現地で作った豚汁で、一息入れました。秋には下草刈りの作業が待っています。



芥子坊主山は、岡田地区のみならず松本市民全体の共有財産です。この事業をきっかけに、山に親しむ岡田の住民が増えると嬉し

いですね。この事業は長野県と松本市の主導で開始されましたが、岡田財産区佐藤議長及び前議長立沢顧問の地区の山林保全に対する熱い思いが、実現の原動力となったようです。

植林作業を通して、緑と里山がますます親密になればいいですね。私たちの芥子坊主山が「岡田の古里の山」から「松本の故郷の山」として、岡田地区のみならず、多くの松本市民に親しんでいただければ素晴らしいと思います。

今年新たに植林した 50 本も含め、里親、里子が協力して 5 年間に植樹した延べ 500 本が大きく立派に育ち、秋には見事な紅葉の景観を演出してくれるのを見守りたいと思います。

(取材 川上)

## 松本らしいコミュニティ・スクール事業 公民館図書委員による「岡田小学校での読み聞かせ」



6 月 18 日午後、岡田小学校「こわく学級」で、公民館図書委員の皆さんによる絵本の読み聞かせが行われました。

事前には公民館で勉強会を行い、今回はクマが登場する絵本と紙芝居を、委員 5 人が持ち寄り、一人ずつ読み聞かせの実演を行った上で学校へ向かいます。

2 年生の教室横を通ると、休み時間の子どもたちから「りんごっこさん、また来てね。」と声がかかります。「りんごっこ」という名まえは公民館内にあった「りんご文庫」と公民館が共催で「読み聞かせ講座」を開いたのがきっかけで、ついたそうです。講座のメンバーが、お話の勉強会も続けながら、読み聞かせサークルを作り、10 年以上も活動しています。「こわく学級」には月 1 回、定期的に行っています。

すし、小学校だけでなく女鳥羽中学校へも赴いて、読み聞かせを行っています。

さて、「こわく学級」では、みんなが座りろろうそくに火を灯して、おはなし会が始まります。手遊びに始まって、計 5 冊の絵本を読み、さいごは紙芝居という 30 分強のプログラムです。メンバーは子どもたちの名前を覚えており、子どもたちも「なんか、きょうクマの本だなあ。」「めっちゃ、優しいや。」など、感じたままを言い合っています。

「りんごっこ」は、福祉ひろばや児童センターでも絵本の読み聞かせをしています。学校での読み聞かせは、「松本らしいコミュニティスクール事業」のひとつと位置付けられています。子どもを、学校と地域で一体となって育てたいこう、という取り組みです。読み聞かせに限らず、地域のおとなが、学校内の子どもたちを助けたり、ともに学んだり、楽しんだり、いろいろな可能性のある事業です。なか案が浮かんできませんか？ 公民館が相談ののつてくれるそうです。

(取材 中本)



松岡子ども山車とともに

今年も5月5日の岡田神社の例大祭に、松岡の子ども山車がお宮まで曳行されました。もう皆さまお馴染みの光景ですね。

明治26年に作られたという、その山車について少し触れてみましょう。

松岡公民館の建て替えが進められていた昭和62年頃、天井裏に子どもの引き車のような物がありました。

当時の町会役員でどうするか話し合った中で、『廃棄したらどうか』とか、せつかく先人が残した物だから『保存が出来ないものか』など、意見が分かれ

**岡田ほっとニュース**

● 松岡 ●

子ども山車のルーツ

たさうです。そして諸先輩方の努力により、今の山車が残されました。

平成4年4月、岡田神社の本殿、社務所の全面改築に合わせ、松岡の山車も竹で舟形に整えられ、勇壮に曳行が行われました。当時は物珍しく、注目を集めたさうです。

その後、何度か手直しをして現在に至っています。笛、太鼓の曲は、波田の上原誠一様が作曲された『道中囃子』です。昭和63年に使用許可を頂いたものです。

♪ピーラピーラピーラピーラ  
ピーラピーラピーラピーラ

名曲が今でも耳から抜けません。5、6年生がお祭り前に3回、猛練習をしています。いい曲ですよ。惚れ惚れ。

曳行当日は、写真撮影、セルモニー、餅投げを行った後、午前9時に公民館を出発します。地域の皆さんが沿道へ出て、子どもたちに大きな声援を送ります。

今年度から、山車の老朽化と転落等の危険防止のため、山車の曳行中、児童は台上には乗せない形になり、寂しいですが子どもたちの記憶に残るよう、夢と希望を乗せて引いて参りますので、今後もご支援をよろしく願っています。

(山車保存会 小林)

『公民館報おかだ』の前号を読んでいたとき、女鳥羽中学校の校歌の一節戸鉢伏山に昇る日の光さしくる戸を見つけた。懐かしくなって歌ってみると、50年ぶりに歌詞を全部覚えていて我ながら驚いた。

校歌とともに、中学生時代の思い出も次々と蘇ってきた。

淡い初恋の思い出は冷や汗とともに、1年時の担任だったK先生との別れは涙とともに。K先生は温厚なお人柄で声を荒げて怒ることは無かったが、人としてやっ

てはいけないことに対しては厳しかった。よく戦争の体験を話してくださった。「ご飯がお腹いっぱい食べられる平和を守っていくのはお前たちだぞ。」と言う先生の声が、今でも時々思

女鳥羽中学校の思い出  
岡田町 R・T

出される。

当時は行事や委員会活動が活発で、それらの体験を通して社会で生きていく上で必要なルールやスキル、生きる力を学んだと思う。女鳥羽中学校では週に1回、確か6時間目に委員会

の時間があり、議長、副議長、書記2名(ノートと黒板)が中心となって会議を進めた。生徒総会の運営も生徒が行っていた。先生方は事前事後の指導はしても、本番では口を出さなかった。多感な年頃に、尊敬できる先生方に出会えたことは幸いだった。

還暦を過ぎた今、私が今まで与えてもらった宝物を、若い人たちに伝えていくという大切な役割を痛感している。

イラスト: 女鳥羽中学校の制服を着た男女の子供たち

**「よってけ市」**  
開店です

東区恒例新鮮野菜直売「よってけ市」の今シーズン第1回が6月9日(土)午前9時から開店し、たくさんのお客さんで賑わいました。今年で3年になるさうです。主催者のお話では、高齢により農作業の負担が大きく、出荷する方が少しずつ減少しているとのこと。「自分達が精魂込めて育てた野菜、地域の皆さんに喜んでもらえることを励みに、一人でも増えていけば」と期待されていました。

また、第2回、6月23日(土)は、地域の気楽なたまり場「コミュニティカフェ地域」を同時開催しました。きっかけは町会の役員会にて、「近所付き合いが少なくなった今日この頃、年配の方やお父さんお母さん達がお茶を飲みながら語り合える場所があれば」との意見か

ら企画したさうです。毎月第2、第4土曜日(原則)、午前10時から午後6時まで。自分の好きな時間に参加。趣味の物、自慢の漬物、好きな本、楽しみ方色々。声を掛け合い集まった方々、とても楽しく、うちに過こしていました。

(取材 村越)

よってけ市

コミュニティカフェ 地域とともに

イラスト: 「よってけ市」の野菜直売と「コミュニティカフェ」の集まりの様子